

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

| | | |
|--|----------------------------|-----------|
| 研究種別 | ■自主研究 19 | 公益目的事業 19 |
| 主査名 | 青木 亮 東京経済大学教授 | |
| 研究テーマ | コロナ後の地域公共交通の維持に向けた取り組み策と検証 | |
| 研究の目的： <p>地域における公共交通手段の維持は過去数十年にわたり厳しい状況が続いており、ここ2年ほどはコロナ禍によりさらに困難な状況が生じている。コロナ禍の影響が予想外に長引いていることもあり、事業者の努力でなんとか維持されていた路線の中には減便から廃止へとつながる動きも見られる。自家用車を利用した相乗り・送迎のような住民参画による手法や、情報技術の発達を背景とする MaaS などを利用した試み、地域独自の運賃制度の導入、生活路線維持策としての観光客輸送など、北関東や中国地方を中心に各地で試みられてきた施策については、本研究会でも分析してきたが、成果や一般化には改善の余地が残されている。コロナ禍の影響を含めて、継続してフォローアップすることで得られた知見や示唆は多く、地域公共交通問題を検討する上で有益と考える。本年度は、これまでの調査の中から有益と考えられる事例を中心に、掘り下げ・フォローアップを行うとともに、関連する取り組み策を比較検討することで、より有効な活性化策に向けて研究を継続した。コロナの収束が読めない状況では、メンバーが遠方に出向いての現地調査は不確実な部分もあるが、もともと本研究メンバーの居住・勤務先は広範囲にわたっており、比較的容易に各地の調査が可能である特性を活かすことで、地域間の比較分析を研究会の討議を通じて実施した。</p> | | |
| 研究の経過（4月～3月）： <p>第1回研究会を6月14日、日交研会議室で対面とオンライン併用で開催した。研究会では、本年度の研究計画を説明するとともに、研究会メンバーから報告が行われた。また第2回の研究会は11月29日に、第3回を3月7日に、それぞれ日交研会議室で対面とオンライン併用で当初計画通り開催できた。これら3回の研究会では、一戸町デマンド交通「いちのへ いくべ号」や、中国地方山間部の鉄道とバスの状況、戦後の路線バスの変遷の取りまとめ、新潟県妙高市におけるコミュニティバスの運行実態、群馬県内バスカードの現状など、研究会メンバーが各地で進めてきた事例を中心とする調査結果について報告を受け、討議を行った。</p> | | |
| 研究の成果（自己評価含む）： <p>各地の公共交通の現状や課題、コロナ前後での変化など個別事例分析の他、通史的な研究により乗合バス事業の全体像を把握することで、メンバー間で理解を深めることができた。妙高市のコミュニティバスなど、事前調査での議論をもとに運行会社である NPO 法人やタクシー会社へ現地調査を行い分析につなげるなど、研究会開催は一定の成果を上げたと考えている。</p> | | |
| 今後の課題： <p>年3回の研究会を通じて、研究は一定の成果を収めたと言える。現状、大きな課題は生じていないと考える。今後もフォローアップ調査等を継続的に進めるとともに、成果について早急に報告書として取りまとめる。</p> | | |